

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎

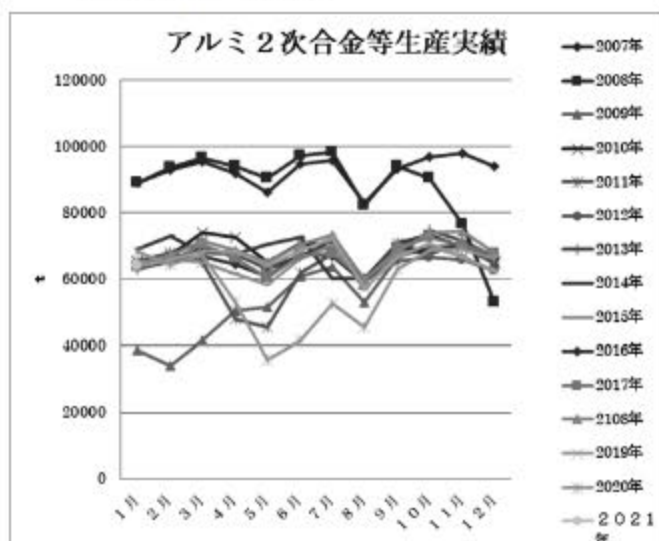


2月のアルミ概況及び3月の見通し (3)

予想レンジ

LME現物後場買い	2,000-2,200ドル	※
スクラップ	据え置きから+5円	※
	(前月最終価格より)	
為替	104-106円	変わらず
	(1か月間TTM)	

アルミ2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム合金協会

国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると1月の自動車生産台数は前年比-10.1%の65万2,878台。輸出は-10%。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると2月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-2.2%の26万2,372台。

内訳は乗用車が-2.7%、貨物が+2.2%、バスは-40.4%。

【住宅着工戸数】

1月の新設住宅着工は、持家及び分譲住宅は増加したが、貸家が減少したため、全体で前年同月比3.1%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比2.2%の増加となった。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比が+0.9%、13万4,221 tで3か月ぶりのプラス。

板類は8万851 tの+4.5%で3か月ぶりのプラス。

押出類は5万3,370 tの-4.1%で16ヶ月連続マイナス。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+2.5%の6万4,116 tで3か月連続プラス。

出荷は+1.9%の6万4,113 tで3か月連続プラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比が+167.7%の164 t、2次合金が+29.8%の2,383 t、スクラップが+4.2%の1万3,800 t、アルミ缶が-19.8%の7,313 t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比+22.6%の11万9,997 t、二次合金が-16.2%の8万7,752 t、スクラップが+6.6%の460 t、合金スクラップが+60.6%の5,463 t。

【見通し】

【自動車】

1月の自動車生産が-10.1%。2月国内販売台数が前年比-2.2%。生産・販売ともに減少。生産減は半導体不足と地震によるものか見極め必要。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比が+0.9%の13万4,221 tで3か月ぶりプラス。今後プラスが続くかの動向に注視。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+2.5%の6万4,116 tで3か月連続プラス。出荷は+1.9%の6万4,113 tで3か月連続プラス。自動車生産販売の減少に伴って減少するか注視。アルミ輸出は相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けて地金スクラップが大幅増。

アルミ輸入は国内自動車生産の減少から合金地金が減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫はLME価格が2,000ドルから2,200ドルに急騰した過程で販売してる事や自動車生産減産に伴う発生減から少ない。

需要面に関しては相場急騰に伴い上がる前の先行買いが進むがメーカーは在庫は潤沢。

【LME・為替予想】

今月は①米金融緩和の長期化観測と②ワクチン接種による感染拡大抑制問題に左右される。

①に関しては、パウエル議長がインフレについて「大部分で弱い」との見解を示し「米経済は雇用とインフレ目標に達するまで長い道のりがある」と述べたことから金融緩和が当面維持されるのではないかと予想。

②に関しては、米国で2月中旬時点で1日当たりの接種回数が、7日間の平均で140万回に達するなど、ペースが加速。拡大が治まるのは時間の問題ではないかと予想。

これらを踏まえた2月のアルミ価格は2,000-2,200ドル(セツル)との予想。

ドル円値は104円~106円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては据え置きから0~+5円程度と予測している。

(「2月のアルミ概況及び3月の見通し」おわり)



<https://home.nikkankinzoku.co.jp/>

株式会社 日刊金属